

令和2年度（第64回）
岩手県教育研究発表会発表資料

コミュニティ・スクール分科会

西和賀高校におけるコミュニティ・スクール導入の在り方に
関する研究

令和3年2月9日

岩手県立西和賀高等学校

鈴木 裕

本正 園子

西和賀高校におけるコミュニティ・スクール導入の在り方に関する研究

1 主題設定の理由

(1) 必要性、意義、理想像など

中教審答申「新しい時代の教育や地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(平成27年12月)において、「未来を創り出す子供たちの成長のために、学校のみならず、地域住民や保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、社会総掛かりでの教育の実現を図るということであり、そのことを通じ、新たな地域社会を創り出し、生涯学習社会の実現を果たしていくということである。」という学校と地域の連携・協働の理念が示された。

また、「地方教育行政法」(平成29年一部改正)に基づき、学校運営に関することについて広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校が地域と一体となって特色ある学校づくりを進めることが求められており、学校の体制として学校運営協議会を置き、機能させることが求められている。

(2) 現状・課題

岩手県は、地教行法の改正を受け、特色ある学校づくり、地域との連携・協働した学校づくりを進める上で学校運営協議会の設置が必要であることから、「岩手県立学校における学校運営協議会設置等に関する規則」(以下、設置等に関する規則)を公布・施行したほか、委員の任命・報酬の準備、説明会・研修等の実施など、県立学校が導入に向けた検討や導入しやすい体制づくりを着実に進めている。

しかし、県立学校において、令和4年度までに、導入または導入予定の学校は11.1%で導入に向けた検討や導入が進んでいない現状がある。

課題としては、働き方改革との両立に対する不安、職員の採用・任用が役割に入ったことに対する不安、地域からの要求の広がりに対する不安等が指摘されている。(「コミュニティ・スクールの

意義と課題」岩永定)

また、7割以上の校長が、学校評議員制度は学校改善を図る上で効果があると認識しているという調査結果(「高等学校の自律的経営と学校評議員・学校評価制度」河野和浩)から校長が学校評議員制度を評価していることも一因と考える。

本校においては、令和元年度に学校運営協議会を立ち上げるとともに、2年次研究の1年目として「西和賀高校におけるコミュニティ・スクール(以下、CS)導入の進め方の検証」を行った。その中で、委員から「学校の現状が分からない」、「高校の困りごとが分からない」、「〇〇教育の取組内容が毎年変わっているが学校としての今後の方向性は？」などの質問や意見が出され、情報の共有(学校の現状の共有、課題・目標・ビジョンの共有、協働の共有、成果と課題の共有、次の計画の共有)に課題があることがわかった。

(3) 解決の手立てや内容

働き方改革との両立を図り、このような課題を解決するためには、新たなことを実施するのではなく、現在行っている学校運営協議会の協議に加え、「マネジメント」に小さな工夫の積み重ね、「熟議・協働・振り返り」の3つの視点をもって共有の好循環をつくる必要がある。共有の好循環によって生み出された「熟議・協働・振り返り」を積み重ねることによって学校と地域の連携の意識が高まり、組織的な対応につながっていくと思われる。

(4) 研究の目的

本研究は、県立学校における地域と学校が連携・協働する方策について実践事例を提案するとともに、コミュニティ・スクール導入推進モデルを提案することによって、県立学校における地方創生に向けた学校と地域の連携・協働を推進することを目的とする。

2 研究構想（研究構想図に代えて）

（１）ゴール像

【学校教育目標】

心身を鍛え、愛と智慧を磨き、たくましく生きる人間を育成する（育てたい生徒像）

【目指す学校像】

- ・明るく活力のある学校
- ・一人ひとりを大切にする学校
- ・豊かな心を持つ有為な人材を輩出し、地方創生に寄与する学校

【学校運営協議会のゴール】

- ・地方創生に向けた学校と地域の連携・協働体制の構築
- ・地方創生（学校を核とした地域づくり）を目指す
- ・社会総掛かりで子供たちを育む体制づくり

（２）研究の対象

【学校運営協議会の主な３つの機能】

- ・校長が作成する学校運営の基本方針を承認する
- ・学校運営について、校長に意見を述べるができる（今回の主な研究対象）
- ・教職員の任用について、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができる

（３）手立て

【学校運営協議会の運営段階】

- ・働き方改革との両立を図り、このような課題を解決するためには、新たなことを実施しないが、会議の準備・実施・反省を次回の運営に生かす
- ・協働前の「熟議」のテーマを焦点化し、事前に提案する
- ・「協働」するものをできるだけ絞り、学校・地域が連携・協働し、課題を発見し解決する学びを実現する
- ・協働後の「熟議」のテーマを「振り返り」として、成功体験を共有（成果と課題を共有）するとともに、次年度の計画に生かす

【コミュニティ・スクール導入推進モデル】

「運営協議会 運営チェックシート」

〔昨年度最終回、今年度の最終回〕

- 振り返り（成果と課題の共有し、次年度の修正点を熟議）
- 学校運営に関する基本方針の承認
〔今年度第1回〕
- 学校運営協議会設置のねらいの説明
- 岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の説明
- 守秘義務の確認
- 教育活動の様子をお知らせする活動（授業参観等と質疑応答）
- 課題・目標・ビジョンを共有する活動（学校経営計画の説明等と質疑応答及び承認）
- 学校の困りごとが分かり、議論が深まるよう、地域の課題と学校の課題の共通部分から、校長が、次回の「熟議」のテーマを提案し協議
〔今年度第2回〕
- 学校運営協議会全員から、今回の「熟議」のテーマに沿った提案
- 学校から、今年度の協働計画を提案し熟議
〔協働〕
- 学校運営協議会委員、地域の方に相談
- 学校運営協議会委員、地域の方と協働
- 学校関係者評価の実施
〔今年度第3回〕
- 協働の成果、課題、次回の修正点の熟議
- 学校評価に基づく熟議

（４）現状

【委員からの意見】

- ・「学校の様子が分からない」
- ・「学校の困りごとが分からない」
- ・「学校の良さが外部の人に浸透していない」
- ・「〇〇教育の取り組み内容が毎年変わっているが、学校としての今後の方向性は」

3 実践構想・研究の見通し

(1) 課題解決の手立て

ア 熟議・協働・振り返りの好循環に向けて

【熟議】

学校の困りごとが分かり、議論が深まるよう、校長が、次回の「熟議」のテーマを一つに絞り、事前に提案することとした。

第2回の熟議のテーマは「西和賀高校ならではの学び・西和賀高校でしか学べない学びの提案」とした。総合的な探究の時間において、「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑(以下、図鑑)づくり」を実践・普及することで地域住民が教育の当事者となって社会総掛かりでの教育の実現を図ることについて承認を得た。

【協働】

総合的な探究の時間の運営には、地域おこし協力隊をはじめ西和賀町役場、地域みなさんに参画していただき、生徒たちが西和賀町の魅力取材、発見し、「図鑑」にまとめた。町外の方、町内の方、小中学生を対象に普及に努めている。

【振り返り】

第3回の熟議のテーマは、総合的な探究の時間「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑づくり」の成果と課題を予定している。成功体験を共有することで熟議・協働・振り返りの好循環を生み出したいと考えている。

イ マネジメントの工夫

学校組織マネジメントの考えを取り入れ、すべての学校運営協議会委員が、学校経営への協働参画の重要性を理解していく場面を設定した。

(ア) 学校運営協議会に先立ち学校理解と事前打合せの場を設定した

a 事前打合せ

第1回では、学校運営協議会設置のねらい、岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則を説明した。

b 授業参観または教育活動の報告

授業参観を通して、習熟度別授業、進路別授業など少人数指導、個別指導を行い、課題を発見・解決する力を育む活動に力を入れていることなどを説明した。

(イ) 学校運営協議会

a 協議題として、学校運営協議会開催計画の承認を位置づけた。

b 各回の運営協議会の計画段階で、4つの視点「前回の振り返り、今回のねらい、熟議を促す情報共有、熟議、次回のねらい」を毎回、位置づけた。

(2) 評価の視点

ア 生徒の変容の視点

(ア) 何を学んだか

(イ) どのように学んだか

(ウ) 何ができるようになったか

イ 学校運営協議会の変容の視点

(ア) 何を行ったか

・前回の振り返りの共有

・今回のねらいの共有

・熟議を促す情報共有

・ねらいが達成された熟議

・次回のねらいの共有

(イ) 協働をどのように行ったか

・誰が関わったか

・どのように生徒を支えたか

(ウ) 何ができるようになったか

・働き方改革との両立に対する不安を払拭できたか

・職員の採用・任用が役割に入ったことに対する不安を払拭できたか

・地域からの要求の広がりに対する不安を払拭できたか

4 実践結果の分析・考察

【西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑づくり】

3 (2) 評価の視点のうち、ア (ア) 何を学んだか、ア (イ) どのように学んだか、イ (イ) 協働をどのように行ったかを以下にまとめて記述。

西和賀高校の生徒が町の魅力を探るため、地元の旅館や菓子店などを訪問して話を聴き、町の魅力をまとめた図鑑づくりに挑戦した。

高校生は、あらためて「おもてなしの難しさ」を学んだ。自分の手で調べたり話を聞いたりしてもっと働くということについて知ることができた。

地域おこし協力隊の方々に協働していただき、授業のねらい、取材の仕方、記事のまとめ方、報告会のプレゼンの仕方を学んだ。

(ウ) 何ができるようになったか

地域の人「西和賀の良さを再認識してもらって将来この町に住みついてもらいたい。」

生徒「優しさがある人たちが多く町だと思っ
て私も将来この町に戻ってきたいと思
った。いろんな人たちにこの素晴らしい
町を発信したいというのは人一倍思っ
ていることなので精いっぱい頑張っ
ていきたい。」

地域おこし協力隊「西和賀全体の良さを認識
してもらう良い機会になっている。将
来の就職先や何かこれから関わって
くれる先のひとつとして西和賀町の
魅力を再発見してほしい」

第三者「高校生にとっても西和賀町の魅力を
再認識する良い機会になっている。町
の人たちにとっても若い世代の人た
ちに町の良さをPRする良い機会に
なっている。」

イ 学校運営協議会の変容の視点

(ア) 令和元年度 第2回の議事録から

①学校説明に対して

学校の様子に関する質問5

②協議

「～について各委員のお考えを伺いたい」

要望15、好評価4、提案2、意見1

③結論

要望等が多種多様、合意形成は困難

要望等の内、学校PR、HP活用を実施

(イ) 令和2年度 第1回の議事録から

①授業参観

②事前打ち合わせ

・学校運営協議会のねらいの共有

・岩手県立学校における学校運営協議会の
設置等に関する規則の共有

・前回までの成果と課題、改善点を共有
〔開会〕

③会長副会長選出

④学校概況説明

定員減に関する質問2

⑤学校運営に関する基本方針(案)

学校の様子に関する質問3

協働に関する意見4、好評価1
承認

⑥学校運営協議会開催計画(案)

意見1

⑦次回の熟議のテーマについて

賛成意見3、反対意見3

熟議し、修正の上、承認

⑧結論

学校の魅力を高めるため、西和賀高校な
らではの学び、西和賀高校でしか学べない
学びを次回、熟議することとした。

(ウ) 令和2年度 第2回議事録から

①西和賀高校ならではの学びの提案

出席した委員全員から提案8

②いのち輝く百年創造塾「西和賀まち・ひ
と・しごと魅力図鑑」の製作と普及につ
いて、質問3、意見2、満場一致で承認

③学校運営協議会開催計画(案) 質問1

④次回のねらい「①の提案に対する回答」
「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑」
に関する成果と課題を熟議

⑤結論

・協働として、いのち輝く百年創造塾「西
和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑」の製
作・普及を行うことを熟議の上、決定

・次回の熟議のテーマは協働の成果と課題

(エ) 会長からの聞き取り

学校側と共通認識をもつことができた。毎回、明確なテーマを与えられていたので、意見を話しやすかった。委員から積極的な意見が寄せられていた。今年度の形を継続したい。

5 研究のまとめ

委員から「学校の現状が分からない」、「高校の困りごとが分からない」、「〇〇教育の取組内容が毎年変わっているが学校としての今後の方向性は？」などの質問や意見が出され、情報の共有(学校の現状の共有、課題・目標・ビジョンの共有、協働の共有、成果と課題の共有、次の計画の共有)に課題がわかった。

働き方改革との両立を図り、このような課題を解決するためには、新たなことを実施するのではなく、会議の準備・実施・反省を次回の運営に生かした。現在行っている学校運営協議会の協議に加え、「マネジメント」に小さな工夫の積み重ね、「熟議・協働・振り返り」の3つの視点をもって共有の好循環をつくることをねらいとした。

具体的には、

- ・課題・目標・ビジョンの共有
- ・前回の振り返りの共有
- ・今回のねらいの共有
- ・熟議を促す学校の現状の共有
- ・得られた結論を協働に移行する準備
- ・協働の成果と課題の共有
- ・次回のねらい・計画の共有

などを意識して実践を行った。

毎回、ねらいを明確化、焦点化しているため、学校が求めたい意見だけを得ることができており、地域からの要求の広がりに対する不安を払拭することができた。

今年度の取組は、校長、副校長、事務長、地域おこし協力隊をはじめとする地域の人たち、学校運営協議会委員で運営しており、働き方改革との両立に対する不安も払拭することができた。

今回の取組は、地域おこし協力隊をはじめとする地域の人たちの協力が得られなければ、ねらい

を達成することはできなかった。

実践事例の一つではあるが、生徒、地域の人たち、学校運営協議会委員と成功体験を共有できたので、地域とともにある学校の運営に一步近づくとともに、今後につながる実践、研究になったのではないかと考えている。

【参考文献・資料】

- 1 中教審答申「新しい時代の教育や地方創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」(平成27年12月)
- 2 地方教育行政法(平成29年一部改正)
- 3 教生第981号「岩手県立学校における学校運営協議会の設置について」
- 4 文部科学省『『学校運営協議会』設置の手引き(令和元年改定版)コミュニティ・スクールのつくり方』
- 5 岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則
- 6 教生第1487号「岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の運用について」
- 7 文部科学省「コミュニティ・スクール2018～地域とともにある学校づくりを目指して～」
- 8 岩永定「コミュニティ・スクールの意義と課題」
- 9 河野和宏「高等学校の自律的経営と学校評議員・学校評価制度」
- 10 西和賀高校「西和賀高校におけるコミュニティ・スクール導入の進め方の検証」
- 11 大崎上島町商工会「島の仕事図鑑」(取材:広島県立大崎海星高等学校生徒有志8名)
- 12 大崎海星高校魅力化プロジェクト(編著)、松見敬彦(文)「高校の魅力化&島の仕事図鑑 地域とつくるこれからの高校教育」学事出版
- 13 西和賀高校「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑」